

当日の質疑応答

◆基調講演

「外国にルーツのある子ども乳幼児期に必要な支援とは」

公益社団法人 全国幼児教育研究協会 顧問 岡上 直子氏

Q：幼稚園が必要とする支援が、自治体や国際交流協会に届いていないと感じます。一方、自治体や国際交流協会も、園の困りごとを把握できていないと思います。現場と支援者の関係、連携をどう図ればよいですか？

A：支援の場があることを自分たちが知ること、探すことが大切だと思います。誰かが教えてくれることを待っていても支援は来ません。私は公立の幼稚園に勤務していたので、困ったことは教育委員会に問合せましたが、教育委員会も知らないこともあるので探してもらうなど、積極的なアクションが必要だと思います。

Q：最後のスライドの多言語のガイドブックについて教えてください。

A：

・愛知教育大の資料があります

http://www.resource-room.aichi-edu.ac.jp/kyozai_sonota_gaidobook.html

・文部科学省の「かすたねっと」にも、様々な情報が掲載されているので検索してみてください。

<https://casta-net.mext.go.jp/>

・「外国人幼児等の受入れにおける配慮について」も作成しました。

https://www.mext.go.jp/content/20200306-mext_youji-000005738_01.pdf

Q：園児がイスラム教徒でハラール食以外食べられない場合はお弁当持参でよいですか？ ラマダーンの時期はどうすればよいですか？

A：お弁当を持参してもらうのがよいと思います。ラマダーンについてはできること、できないことをお互い話し合いながら回答することが大切だと思います。

Q：データに出てきた「外国人」は「外国籍者」ですか？

A：はい、文部科学省の調査は外国籍です。

Q：保護者が日本の学校や園に入れたくない場合は強く勧めない方がよいですか？

A：義務ではないため理由にもよりますが、一番の課題は就学時です。突然小学校に入っても言葉が分からず躓くのを避けるため、日本の文化や言語を把握していることは重要だと思います。

Q：園で母語教育しているところがありますか？ 母語教育は家庭の役割でしょうか？

A：インターナショナルスクールなど、外国人を受け入れる園で母語教育をしていることは考えられますが、公立の園では聞いたことがありません。

Q：外国にルーツのある保育士の就業状況の調査はされていますか？

A：事例はあると思いますが、調査については把握していません。

★実施後、追記分

Q：自治体で外国人子育てサークルを作り支援を考えましたが、それぞれの子育て文化の違い、集まる人々の言語がすべて違うこと、時間通りに集まらない、参加が自由で参加しなくなるなど支援の難しさに悩んでいます。多言語HPや子育てガイドを作成していますが、その他の自治体の支援として何をすべきか悩んでいます。

A：自治体がいろいろ支援を考えてくださっていることは、とてもありがたいと思います。

ご質問の自治体は多言語HPや子育てガイドを作成しているとのこと。そこまでできているならば、自治体の中に、居住されている外国人親子が「どのような困難を感じているか」に関する情報をもっている部署があるのではないのでしょうか？ その状況が全く分かりませんので、私は一般的なことしか言えませんが、外国人の子育て親子の文化や言語、生活リズムに合わせた取組を考えてください。

①子育て中の親子は、子どもの生活リズムで動いています。

就学前の親子が時間通りに行動することは、難しいと考えた方がよいと思います。

例えば、親子でサークルに参加しようと思ってドアに鍵を掛けたとたん、子どもが「おしっこ～」と言い、鍵を開けて慌ててトイレを済ませて出かけるのが遅れることはよくあることです。「なんで早く言わないの！」などと、叱られている間におもらししてしまえばさらに遅くなります。会場までのバス等に乗り遅れることもあるでしょう。時間通りに行きたくても、時間通りには動けないことも多いのです。こういう親子の状況を受け止めて支援策を考えていく必要があるのではないのでしょうか？

「時間通りに行動することを求められれば」、きっと外国人親子は来なくなる（来られなくなる）と思います。どのような時間帯なら来やすいか考えたり、途中からでも参加OKとしたりするなど、ゆとりのある支援の取組を考えていただけるとよいと思います。

②集まる人の言語が全て違えば、サークルに参加して親子はコミュニケーションができずに困ってしまいそうですが、それに対してどのような支援をしているのでしょうか？

外国人親子は、集まる場所があれば安心し喜ぶわけではないと思います。そこに行けば「困ったことが解決できる」「話を聞いてもらえる」「楽しかった」「また、行って〇〇をしたい」と思うような体験ができれば繰り返し参加するようになると思います。

多様な文化・言語の外国人に対してまとめていっぺんに支援するというより、それぞれの外国人親子の困りごとに寄り添い、困りごとに応じる方策を考えていただけるとよいと思います。自治体の中で、外国人の生活状況について具体的な情報をもっている人、団体、NPO等を探して、どのようなことに困っているのか具体的に把握して取組を考えてみてください。

Q：外国人と交流したい地域の人が多いと思いますが、多文化共生の意識を持つ人は少ないと思います。多文化共生の意識を日本人の保護者や児童、地域の人に向けていただくにはどのようなアプローチが必要でしょうか？

A：質問者が幼稚園・保育所等の方であれば、日本人であろうと外国人であろうと、遊びもけんかも含めて、「人が好き」「言葉や思いが相手に伝わると嬉しい、楽しい」と感じる体験や、思いが伝わる喜び、伝え合う喜びをたっぷりと味わわせることを大切に答えます。多文化共生って、互いの存在を認め合うことだと思うからです。

保護者や児童、地域の人々は、理屈（言葉）では知っている方も多いと思います。

しかし、多文化共生の意識をもついただくためには、言葉（理屈）で「互いを認め合おう」とか「認めなけ

ればいけない」からという「理解」だけではなく、一人一人が実感する場面が必要だと思います。
交流の中で、そういう場面があったら見逃さずに関わりかけたり気づきにつなげたりする働き掛けが大切です。
「認め合うって、こういうことなんだ」と実感できる場面につなげられるように、支援者自身が気づき働きかけることが重要だと思います。

Q：受け入れる園（幼稚園、保育園、認定こども園等）の言語の環境整備とありますが、どのように整備していくのでしょうか。

A：いくつか例を挙げます。

- ① 在籍している外国人幼児のロッカーや靴箱などの名札は、平仮名とその国の文字を併記する（書けない場合は、保護者に書いてもらうとよいと思います）。
- ② 簡単な挨拶は、外国人幼児の母語で言ったり日本語で言ったりして、互いに覚えて使ってみようとする姿勢を示す。 ➡ 通じたら喜ぶ気持ちを伝える。
- ③ 学級の遊びや活動の中で、外国人幼児の母語や文化について話題にしたり、その国の遊びを取り入れたりする。
- ④ 母語を大切にしている姿勢を、幼児や保護者に示す。
- ⑤ 日本語を使うようになって来たら、伝わる喜びを共有する。
- ⑥ 大事なことが伝わらない時には、通訳等の配置や配置がない場合には伝えられる人を確認しておく。
- ⑦ 保育室やホールなどの掲示板に、外国人幼児の国の言葉や文化を紹介する。日本の文化と一緒に紹介するなど、工夫する。

など、相手の状況に応じて工夫することが大切です。

◆事例紹介

「西尾市の 多文化共生教育体制について ～多文化ルーム KIBOU の取組～」

西尾市教育委員会事務局 学校教育課 主幹 鈴木貴之氏

多文化ルーム KIBOU 社会福祉法人せんねん村

多文化共生教育コーディネーター 川上 貴美恵氏

Q：プレスクールは何名で運営していますか？

A：担当は川上1人ですが、状況に合わせて5～6人で活動しています。

Q：KIBOUは10人で運営していますか？

A：はい

Q：素晴らしい活動であるが予算規模はどのくらいですか？

A：市の年間6,000万円程度です。

Q：プレスクールの参加費用がかかりますか？

A：参加費は無料です。

Q：子どもの発達について不安に思う場合の相談専門機関はありますか？ 学校から、ことばの問題で対応ができないという相談はありますか？

A：教育委員会には専門家である特別支援教育アドバイザー（2人）が配置されています。小中学校の発達の問題のある児童生徒と保護者の支援を行っています。外国人の家庭の場合は、日本語初期指導の多言語の支援員が児童相談所に同行して発達検査を行ったり、という対応を行っていると聞いています。また、日本語の問題なのか、発達の遅れなのか？ 園でも悩む場合があるので、語彙調査の結果生活の様子をお伝えしています。

Q：語彙調査についての資料は見られますか？

A：愛知県プレスクール実施マニュアルを参考にすると100問語彙テストが掲載されています。理想は日本語と母語両方の側面からのテストです。

Q：不就学の子どもの把握はどうしていますか

A：家庭訪問をして就学調査をしています。就学を迷っている家庭がかなりあるので、通訳者と共に何度も訪問しています。

Q：西尾市が発行する「がっこうのことば」は他地域で使ってもよいですか？

多文化ルーム KIBOU ブログ→

<https://tabunkakibou.wordpress.com/resource/>

西尾市教育委員会ウェブサイト→

<https://www.city.nishio.aichi.jp/index.cfm/8,70120,90,402,html>

A：使用して構わないですが、西尾市の独特の言葉が含まれていますのでご了承ください。

以上